

132 E 24  
(84 A 33)  
(133 B 11)

特許庁  
実用新案公報

実用新案出願公告  
昭39-22583  
公告 昭39.8.7  
(全1頁)

点滴壺用容器

発 願 昭 37-53508  
出 願 日 昭 37.9.18  
考 案 者 石井宏市  
東京都中野区桃園町29  
出 願 人 吉野弥太郎  
東京都江東区大島町3の110

図面の簡単な説明

図面は本案品の半縦断面図を示す。

特徴の詳細な説明

本案は内容液が連続流下せず確実に点滴となるようにした点滴用壺の改良に係るもので、軟質製の点滴用壺1を包含する硬質製容器2のほぼ中央に透孔3を設けた事を特徴とするものである。

従来の点滴用壺は軟質合成樹脂等で形成し壺に柔軟を持たせ、該柔軟な壺の中央を押圧して点滴状にしていったのではあるが、度々壺中央が強く押圧され内容液が連続流下してしまい点滴用壺の役目をしなかつた等の欠点があつた。

本案は従来の点滴用壺の上記欠点を欠除して確

実に内容液が点滴状となるようにしたものである。

これを図面について説明すると点滴孔4を有する点滴用壺1の大部分を包含する硬質製容器2のほぼ中央に指等で壺1を押圧出来る位いの透孔3を穿設しつつ該容器の頸壁部分に接合あるいは螺着等をする環状体5を壺1上部に嵌装しさらに壺1の螺部に螺合する蓋6の下方にロー レット等を設けてなるものである。

以上のような構造であるので従来のように点滴用壺を押圧しすぎることなく指頭にて点滴用壺1を包含する硬質製容器2の透孔3へ挿入すれば適度に押圧され点滴孔4より連続流下することなく確実に点滴状に出せるのである。

また本案の蓋6の下方に設けたロー レットにより蓋の嵌脱が簡単でありさらに容器2も環状体5 蓋6を適宜な色彩にて着色すれば意匠的にもすぐれたものとなる。

実用新案登録請求の範囲

図面に示すことく軟質製の点滴用壺1を設けこれを包含する硬質製容器2のほぼ中央に透孔3を設けた事を特徴とする点滴用容器の構造。

